

第7回 武蔵野市生涯学習計画（仮称）策定委員会会議要録

日 時	平成 21 年 12 月 25 日（金） 午後 7 時 00 分から 9 時 00 分	
会 場	武蔵野地域自由大学交流センター	
出席者	委員 （敬称略）	◎林大樹、○倉持伸江、飛山堪子、富川昌美、小町友則、白井龍男、 渡邊一衛、萱場和裕 （◎委員長、○副委員長）
	事務局	生涯学習スポーツ課長、スポーツ振興・国体開催準備担当副参事、 武蔵野プレイス開設準備室長、武蔵野プレイス開設準備室副参事、 （財）スポーツ振興事業団事務局長 ほか
	傍聴者	0名

【会議要録】

1 開会

2 (1) 生涯学習計画に関連する他の計画の中間報告について

- ・事務局より、現在計画策定中の『生涯学習計画』に関連する『武蔵野市図書館基本計画』の中間報告の概要について説明。

(2) ①施策体系図について

- ・事務局より、『武蔵野市生涯学習計画中間のまとめ』の加筆修正内容を説明。
- ・主な加筆修正箇所は、施策体系図中、基本目標 4 から 6 の目標名修正、基本目標 5 と 6 に施策の考え方を追加、基本施策の組み替えや施策名を修正。
- ・施策体系図の修正をふまえつつ、前回の策定委員会が出された様々な段階での学びへの参加や学びの広がりをイメージする波紋を意識して基本目標の関係図を修正。

【委員長】 まずは大枠の施策の体系図と施策体系冒頭の関係図にある基本目標の位置づけについてご意見いただきたい。

【倉持委員】 関係図のなかであえて基本目標 1 「学びを育む基礎づくり」だけ扇形の表現が違うのはなぜか。

【事務局】 これまでの策定委員会での議論にもあったが、そもそも基礎づくりから入るだけではなく、多様な段階から学ぶ人もいるということを示したいと考えこのような図形とした。

【倉持委員】 発信から入る人やボランティア活動から入る人もいると思う。どの段階から入るということでもよいはずなので、扇がずれていくようなイメージで図を構成してみてはどうか。

【事務局】 ご趣旨をふまえて図を修正していきたい。

【倉持委員】 同じく関係図の中で表現されている 5 つの矢印は何か。

- 【事務局】 波紋をイメージしたものである。基本目標1から4を受けて、基本目標6「未来への学びの継承」に広がるイメージである。横軸は基本目標1から4の考え方、縦軸は未来へとつながる考え方を表現している。
- 【倉持委員】 印象としては、矢印が無くても意味は伝わると思う。
- 【小町委員】 縦軸が学びの段階で横軸が時間。両方とも同じで感覚的に分かりにくい。理系的に考えると同じことを言っているのでおかしい気がする。
- 【渡邊委員】 座標ではないので、時間の軸はいらないかもしれない。図の説明の文章に書いてあるが、生涯学習はどこから入ってもよいという考え方である以上時間軸は必要ないのでは。
- 【飛山委員】 時間軸の矢印は片方にしか向いていなくて、学びの段階は両方向に矢印が向いている。どこからでも生涯学習に入ることができるという考え方に時間軸だけ反してしまっていると思う。
- 【倉持委員】 軸があること自体が不自然なのかもしれない。
- 【事務局】 当初は円を想定したが、どこから学びが始まるのかが分かりにくいという話があり、軸を設けて学びを進めることを表すなかで扇型となった。時間軸は個人の学びという視点から入れたものである。
- 【渡邊委員】 基本目標5「生涯学習社会基盤の強化」だけ別なのはどうか。すべての学びの段階に関係しているものであるため線形の中心から下あたりに表したほうがよいのではないか。
- 【倉持委員】 この施策体系の図は、円柱など立体化することで立体の部分に厚みを持たせ「生涯学習社会基盤の強化」とし、支えていることを表現できないか。
- 【富川委員】 パームクーヘンをカットしたようなイメージではどうか。
- 【委員長】 年輪なのか扇が重なっているイメージの図になるかだと思われる。
- 【事務局】 既存の図表を基本に立体的に考えてみたい。

②答申に向けての課題の検討について

□基本目標1から6について

- ・事務局より、基本目標1から6について全体の流れ、文章表現を説明。
- ・基本目標については、基本目標の説明、施策の考え方の説明、各基本施策の説明、事業例を掲載する形で構成。事業例は便宜的に入れているがあくまで現時点の例。続いて、施策体系図、最後に重点施策という順序で構成。
- ・重点施策は基本施策で記述する内容を再度掲載する予定。

【委員長】 最終答申において、事業例はどこまで記載するのか。また、事業の継続、見直し等はこの委員会で議論するものなのかどうかスケジュールを含めて教えてほしい。

【事務局】 1ヶ月後の次回策定委員会までにある程度事業例として掲載する事業

を抽出したい。事業例としてあげるなかには庁内の他の所管課が主管する事業もある。次回の策定委員会までに可能な限り担当課に確認しつつ事業は入れ込みたいと考えている。

- 【富川委員】全体にかかわることだが、特色ある事業例の欄について、「実施主体」という項目があってもよいと思う。実際の事業のなかには担当部署だけでなく、NPOや市民と一緒に取り組んでいるものもあると思う。できるかぎり実態に即した形で示せるとよい。
- 【事務局】本日お示ししている担当部署の欄でも、カッコ書きでかかわっている団体は入れている。そのような形なら可能と考える。
- 【富川委員】事業の「実施主体」は特定の団体名を入れるのではなく、市民、市民団体といった括りのレベルで表記することなら可能なのではないか。
- 【事務局】市の事業は様々な運営形態がある。項目の欄として入れるのではなく、事業概要のところに組み込むなどの工夫はできると思う。
- 【白井委員】市の担当部署だけでよいと思う。公共性の面から考えると特定の団体だけ名称が掲載されるのは難しいと思う。
- 【渡邊委員】事業の「実施主体」は将来にかかわる可能性もあるため、団体名は入れないほうがよいと思う。市がどう取り組んでいくかという計画なので、担当部署名だけでよいと思う。
- 【富川委員】事業の実態をどこまで示せるかという点からの問題提起である。
- 【飛山委員】今回の生涯学習計画で事業例は担当課まで記載があればよいと思うが、実際に新規事業として考えているものなどはどのような団体がかかわる可能性があるのか示されてもよいと思う。また、計画の中身とは別に団体等の紹介があってもよいと思う。
- 【小町委員】基本的な話であるが、この策定委員会でこれまで議論してきたことは既存事業の整理である。今日は既存事業の継続、見直しや新規事業について議論しているが果たしてそれだけでよいのか。既存事業ありきで進めることは違う気がする。本来であれば方針のレベルで必要なことは何か、施策体系図のなかで本当にふさわしいかどうかを考える必要があると思う。すべての事業で対応するのは難しいと思うが、そういう視点で見ていく必要はあると思う。
- 【委員長】例えば、1-1-3基本施策「青少年への生涯学習機会の提供」では「土曜学校」の見直しや評価について詳細に記述されている。これは「土曜学校」に深くかかわっている方は評価できると思う。この策定委員会で考えることは本来の趣旨に合っているか、計画の体系のなかでどのように位置づけられるかを話し合い、示せばよいのだと思う。
- 【小町委員】「土曜学校」を継続するとしても、この計画の体系のなかでどのような趣旨にそって事業を進めるのかを示すことが必要であると思う。
- 【富川委員】今までは事業の継続や見直しなどの議論をしていない。もしそういった評価を入れ込むのであれば議論が必要ではないか。

- 【事務局】 各分野で目的は違うが手法が似たような事業がおこなわれていることはこれまでの結果として分かったことである。まずは整理をしている段階である。また、このような整理を進めるなかですべての事業をこの策定委員会の場で評価することは難しいと思う。
- 【萱場委員】 この場で事業の取組欄の評価は難しいと思う。5-2-2基本施策「生涯学習推進体制の確立」の事業例にある「生涯学習推進連絡会（仮称）の設置」の庁内体制のなかで評価することにはどうかと思う。また、事業の取組欄をよく見るとほとんど継続とあり、同じような印象を受けるので「取組欄」を「備考欄」にして新規や見直しだけを記載するのはいかがか。
- 【倉持委員】 各事業の妥当性を検討する判断のベースをどう考えるかという議論はこの策定委員会で検討することだと思う。その際、基本施策の文章レベルの内容が重要である。現在の内容ではそれぞれの基本施策の文章もかなりレベル差がある。また、個人的には基本施策名と文章の中身で思っていたものと若干違っていたものもあると思う。
- 【委員長】 12ページの1-1-3基本施策「青少年への生涯学習機会の提供」の文章のうち、この策定委員会として基本施策で大事なのは最初の3行であると思う。事務局として土曜学校についてここまで記述することは何か考えがあつてのことか。
- 【事務局】 事務局として、土曜学校の今後の展開は課題でもあったことから記述が増えている。ただ、土曜学校だけが「青少年への生涯学習機会の提供」ではないので表現の仕方はあると考える。
- 【渡邊委員】 基本目標6「未来への学びの継承」は施策の考え方がまだ一つである。基本施策を1から3と4から5で二つに分けてはどうか。基本施策1から3は知識を得ることなので例えば「過去・現在を知る未来」といった項目立てができるのではないか。基本施策4から5は「未来へ広がる」ような項目で整理できないか。また、5-1-4基本施策「市民会館等既存施設の有効活用」の事業例にある「市民会館の図書館機能の見直し」は事業名称としてそぐわない。5-2-2基本施策「生涯学習推進体制の確立」の末尾の文章は工夫したほうがよい。
- 【白井委員】 5-1-4基本施策「市民会館等既存施設の有効活用」に関連して、桜堤小学校の活用は今後どうなるかがいたい。教育センターとして活用できるとよいと思う。
- 【萱場委員】 児童数が減ってきたので「境北小学校」と「桜堤小学校」の2つの小学校を一つにして「桜野小学校」とした。使っていない学校を1校暫定的に活用している。建物も老朽化しているので建て替えなどの話も出されている。教育委員会ではなく、地域の施設配置の検討委員会が市の全庁レベルで立ち上がっている。来年夏までに一定の考え方を出す予定であると聞いている。

- 【白井委員】 6-1-1 基本施策「市の歴史や文化の知識の提供」は、2-2-7 基本施策「地域の再発見につながる学びの機会の提供」に入るのでは。学校で使える歴史等の写真は生涯学習でストックできるとよい。
- 【事務局】 武蔵野プレイスのなかにアーカイブス機能を設置する予定である。
- 【渡邊委員】 6-1-1 基本施策「市の歴史や文化の知識の提供」は過去から未来という趣旨からも現行の体系のほうがよいと思う。
- 【倉持委員】 基本目標6のコンセプトが見えづらい。子どもに伝えていくものなのか、もう少し広い世代、まちづくりも含めて行動的にとらえて目指していくものなのか。タイムスパンなど、改めて何のための基本目標6なのか、もう少し解説をしっかりと書きこまないと分かりづらいと思う。人材育成の話はどうとらえるかによって変わると思う。
- 【委員長】 基本目標6は施策の考え方が一つしかない。例えば6-2 施策の考え方「創造的な学びの社会」などがあると整理できないか。基本目標のタイトルは「未来の学びへの継承・発展」だと分かりやすくないか。
- 【富川委員】 学習機会の「提供」という言葉がひっかかる。「提供」という言葉が多く、上下関係が垣間見える気がする。
- 【事務局】 講座型のものでどうしても「提供」という表現になってしまっている。事務局としても表現は工夫していきたい。
- 【倉持委員】 内容的、概念的にも主体の話とも相まって考えると「提供」という言葉はそぐわない。武蔵野市はもっと市民が主体の文化があると思う。
- 【渡邊委員】 全体的なまとめ方はパターンを決めた方がよい。背景、施策のねらい、実施方法、具体例などの構成で標準化したほうがよいと思う。とくに背景やねらいが重要だと思う。
- 【事務局】 背景などは現状を記載する中で中間まとめからもボリュームアップしたいと考えている。

□その他

- 【事務局】 男女共同参画推進市民会議から会の開催日の関係により、パブリックコメント期間終了後にご意見をいただいた。
- 【倉持委員】 パブリックコメントとしての取り扱いではなく策定委員会として検討する時間をもつべきと思うが、いかがか。(全員賛成)

3 その他

(1) 次回以降の日程について

- ・ 次回策定委員会 1月25日(月) 19時 地域自由大学交流センター。
- ・ 次々回策定委員会 2月9日(火) 19時 地域自由大学交流センター。

4 閉会